

ザビエルの日本情報を書物にした  
トルセリーニの話  
奥 正敬

■はじめに

今年「スペイン日本交流400周年」、そして「日本におけるスペイン年」です。これは江戸時代初期の1613（慶長十八）年に、仙台藩主の伊達政宗が家臣の支倉常長を遣欧使節として、スペインやヨーロッパへ派遣したことから数えて400年になることを記念したものです。しかし、スペインと日本との関係はそれよりさらに古く、フランシスコ・ザビエルの鹿児島上陸にまで遡ります。

その時、彼は日本の状況を書簡に纏めていました。この情報が、のちにトルセリーニという人物によって、日本を紹介する書物になるのです。

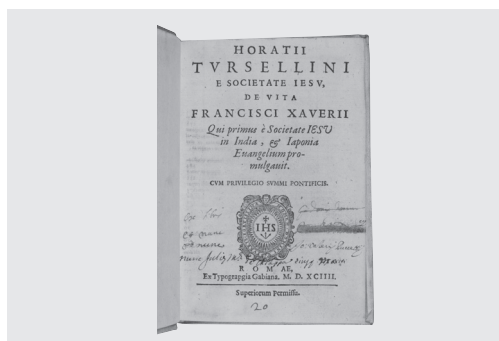
■トルセリーニによるザビエルの伝記

スペイン生まれのキリスト教宣教師、フランシスコ・ザビエル (Francisci Xaverii, 1506-1552) は1549（天文十八）年に来日しました。彼は上陸した薩摩でキリスト教の布教を始める傍ら、日本人や日本社会を観察して複数の書簡を認め、第一報は自分を鹿児島まで送った中国船に託しました。その後も平戸や山口、京都、豊後の情報をまとめて帰路のコーチンから発信しました。それらはゴアやローマなどに宛てて送られ、特にヨーロッパの聖職者たちは極東における布教を大いに喜びました。しかし、それもつかの間のことで、ザビエルは日本を去ったのち、中国布教の途上で帰天したのです。

それから42年後の1594年、イタリア人のイエズス会士オラチオ・トルセリーニ (Horatii TvrSELLINI, 1544-1599) は伝記である『聖ザビエルの生涯』をラテン語で著し、ローマで刊行しました。彼は1562年にイエズス会に入り、ローマの同会の学院で院長を務め、言語学や歴史学などの分野に多数の著作を持つ碩学です。ヨーロッパでは、ザビエルが帰天すると東洋布教関係書や伝記類が刊行されていましたが、このトルセリーニによるラテン語版の完成後は、それらを凌駕して高い権威を生みます。

本書は全4章から成り、第1章はザビエルの性格と受けた教育。イグナティウス・デ・ロヨラ

らと行ったイエズス会の創設。インドへの出発とゴア近辺での布教について。第2章はマラッカにおける日本人アンジロウとの出会いと日本に向かう決断。そして鹿児島への到着。第3章は鹿児島での布教と京都へのお発。山口と豊後の大名に厚遇されたこと。さらに、インドへ戻り中国行きを決意してその地で帰天するまでについて。第4章はザビエルの生前と死後に起こった奇跡について記されています。



“De vita Francisci Xaverii”  
（『聖ザビエルの生涯』）ラテン語版 ローマ、1594年。  
本学図書館所蔵

トルセリーニは1596年になると誤りを正すために大改訂を加えた『増訂版 聖ザビエルの生涯』を刊行します。その版をもとにイタリア語をはじめ、スペイン語やフランス語、ドイツ語、英語、オランダ語、ハンガリー語などの言語に翻訳され、「東洋の使徒」ともよばれるザビエルの業績が知れ渡っていきました。

■伝記に続くザビエルの書簡集

この1596年刊行の増訂版には書簡集が付けられていました。ザビエルはインドに向かう前のボローニャやリスボンからも書簡を発信していましたが、多くはコーチン、ゴア、マラッカなど東洋で書かれたものです。トルセリーニはザビエルの書簡をヨーロッパ各地から集めてラテン語に翻訳しています。本来はこの書簡の収集が整わない限り、先に刊行された『聖ザビエルの生涯』も成り立たず、刊行もあり得なかったのです。その後、増訂版に付された書簡集は個別に『聖ザビエル書簡集』として各地で刊行されるようになりました。

本学図書館所蔵の書簡集（1682年のルグドゥスム版）は本文4章と追録から成っており、合計73通の書簡で構成されています。そのうち日本で書かれたものは6通で、鹿児島から発信され